

## 第7章 史跡の活用と方向性

### 第1節 活用の方向性

船来山古墳群は、その歴史的永続性、その古墳の形式の多様性、そしてその数として東海地方随一の古墳群であると言える。この古墳群を現地で体感して得られる教育的影響は極めて大きいと言える。市教育委員会はこれまでも、こども学芸員の任命による船来山古墳群の周知を行っている。その内容は、船来山古墳群を通じて歴史的なものばかりでなく、船来山古墳群を「市の宝」としてどのように市外へ発信していくのかなども研究材料として発表を行ってきた。その結果、「船来山古墳群を身近なものとして整備し、誰もが安心して、安全に行けるようにしたい」「多くの人が気づいてくれるように、高速道路のインターチェンジに看板を設置したらどうか」など、「地域の宝」としての船来山古墳群を目指すべきという力強い意見が出ている。また、船来山古墳群のボランティア活動として、古墳の周囲の草刈りを行うなど、維持管理に協力をしてくださる有志も増えてきた。さらに、自然的調査の永続的な研究も岐阜県立岐阜農林高等学校を中心に行われている。このように、船来山古墳群をめぐる活用は地道に続けられており、さらなる発展を期待している。また、インターネットを利用した他の地域との連携も必要になると考えられ、地域の他の文化財との連携も視野に入れる必要がある。「古墳と柿の館」を船来山古墳群のガイダンス施設として位置づけ、積極的に他地域との交流を深めることによって船来山古墳群の価値がさらに上がり、地域への貢献度が増すものと考えられる。

視点を変えてみると、船来山古墳群は丘陵上に位置する古墳群であり、古墳群を巡るのに歩いて行ける範囲である。これを健康増進の点から遊歩道の整備を行えば、誰もが散歩や、トレッキングを楽しめる史跡となる。訪れる人のニーズに応じたコースを設定することにより、学習から娯楽、そしてスポーツなど、様々な楽しみを見出すことができる。こうした視点を軸に、さらに可能性を探っていきたい。

### 第2節 活用の方法

船来山古墳群が丘陵上にあり、この丘陵を利用して史跡範囲外も取り込んだ見学コースの設定や、多くの形式がある横穴式石室の石室復元により本物を味わうことができるようにするなど、多種多様な活用方法がある。

#### <学校教育を中心とした活用方法>

本巣市教育委員会では、これまで小学校を中心として学校教育に船来山古墳群を取り入れてきた。小学校6年生の社会科の授業で船来山に登り、蓑虫山人が描いた本巣市の文化的景観を実際に体験し、併せて船来山古墳がどのような変遷を辿っているのかを、「古墳と柿の館」とともに見学している。岐阜大学教育学部と連携して開発した教育プログラムにより、探究型の見学で学びを深めている。また、この見学には船来山古墳群ボランティアが協力している。このような、史跡現地の価値と館内の出土品とを結びつけて案内できるボランティアガイドの育成に取り組み、学校のみならず、船来山古墳群の見学に訪れた人々の案内も行なっていけるようにしていきたい。これにより地域と見学者の交流が生まれ、船

来山古墳群の価値が高まると考える。

<ふるさと学習>

近年ふるさと再発見として、学校教育を中心として「ふるさと学習」が行われている。本市では、ふるさと学習の一環として船来山古墳群をはじめとする歴史学習を積極的に行っており、なかでも船来山古墳群を教育的資源として活用している。「ふるさと学習ロマンプロジェクト」に参加した興味のある児童生徒を「こども学芸員」として認定し、次代を担う人材として育てている。

### 船来山古墳群 ワークショップを行いました!

令和2年の「第1回船来山古墳群ワークショップ」は  
7月18日に開催されました。



当日は、ワークショップの前に「本業市こども学芸員」の認定式が行われ、本年度は7人に認定書が授与されました。



認定式のみならず「国史跡船来山古墳群のこれまでとこれから」と題して発表が行われました。



こどもたちの発表を熱心に聞き入る参加者

今回のワークショップのテーマは「船来山古墳群をPRするには?」と「船来山古墳群を活用するには?」の2つで、次のような意見が出ました。

#### 船来山古墳群をPRするには?

**現状**

- アンケートで「興味がある」と答えた人 ⇒ **38.8%**

**問題点**

- 広報やホームページは、特定の人しか見ていない
- 子どもや若い世代に伝わっていない

**PRの方法**

- SNSの活用
- 高速道路の出入口や縦貫道への大きな看板の設置
- 国や県の協力を得る ほか

**古墳以外のPR**

- 飲食、景色、遊歩道
- イベント、文化遺産カード
- 価値を広める

#### 船来山古墳群を活用するには?

**現状**

- 竹が古墳を壊している
- 土砂崩れで古墳が壊れるかもしれない
- 置が多く、見に来てもらうのが心配 ほか

**活用を考える**

- 未指定地も早急に指定し整備を
- 遊歩道の整備、案内看板の設置が必要
- これぞ「古墳」と言える古墳がない

**気軽に安全に活用できる古墳公園にするには**

- 安全な遊歩道、不法投棄の対策、駐車場の整備
- 眺望を活かした展望台やあずまやの設置
- 説明板やVR(仮想現実)、AR(拡張現実)を活用した古墳の解説
- 高速道路かつの見える工夫
- 園にでも分るように古墳(墳丘)の修復、復元 ほか

船来山古墳群ボランティア会と子ども学芸員プロジェクトの申込  
問い合わせ先 ☎058-323-764

#### 「国史跡船来山古墳群のこれまでとこれから」の発表内容

- 船来山古墳群は、弥生時代の終わりから築造が始まり、古墳時代の終わりごろまで続きました。
- 約290基もの古墳が集まる東海地方では最大級の群集墳で、貴重な赤彩古墳も3基見つかっています。
- ゴルフ場開発が計画されたことに伴い発掘調査が行われましたが、埋め戻しがされなかったため20年間「野ざらし」の状態です。早急な保護の手立てが必要です。
- 現在、ボランティアの手による保護活動が行われていますが、さらに多くの皆さんの助けを必要としています。

## 船来山古墳群 ふるさと学習パンフレット

FUNAKIYAMA TOMBS  
船来山古墳群 幸ノ科104号 古墳群

ふるさと学習  
ふなつきー

### 古代と未来のかけ橋 船来山古墳群



船来山は、はるか昔の古墳時代に、山全体に古墳がびっしり築かれた古墳群です。東日本最大級、空にも語る巨大な古墳群です。これから本業市が誇る素晴らしい宝物を紹介しましょう。

### ふるさと学習ロマンプロジェクトの取り組み



本業市は、ふるさと学習の推進と歴史教育の充実の一環として、船来山古墳群をテーマにした「ふるさと学習ロマンプロジェクト」を立ち上げ、市民や子どもたちと連携して取り組んでいます。このプロジェクトでは、古墳群の歴史や文化を学ぶだけでなく、古墳群の魅力を伝えるための取り組みを行っています。例えば、古墳群の歴史や文化を学ぶだけでなく、古墳群の魅力を伝えるための取り組みを行っています。例えば、古墳群の歴史や文化を学ぶだけでなく、古墳群の魅力を伝えるための取り組みを行っています。例えば、古墳群の歴史や文化を学ぶだけでなく、古墳群の魅力を伝えるための取り組みを行っています。

表 8 令和 2 年度ふるさと学習ロマンプロジェクト予定表

予定表			
日にち	予定時間	内容	集合場所
7月18日（土）	13時30分から16時00分	船来山古墳群の未来を語ろう！こども学芸員開講式、船来山古墳群保存活用計画意見交流会・ワークショップ	富有柿センター視聴覚室
9月19日（土）	13時30分から16時00分	船来山古墳群に葬られた豪族を推理しよう！教育プログラム体験	古墳と柿の館
10月17日（土）	13時30分から16時00分	船来山赤彩古墳に葬られた豪族を推理しよう！自分の推し墳をつくろう！	古墳と柿の館
11月7日（土）	13時30分から16時00分	船来山古墳群清掃活動「船来山から濃尾平野を眺めよう！古代米収穫」（大雨の場合は翌日8日）	古墳と柿の館
11月23日（祝月）	10時00分から12時00分	船来山古墳群秋の歴史体験教室（古墳リース、正月リースづくり）	古墳と柿の館
3月6日（土）	13時30分から16時00分	閉講式・船来山古墳群保存活用計画結果発表会 ※4回以上出席の方は修了証を授与します	古墳と柿の館

#### < 船来山古墳群ボランティア >

船来山古墳群に興味・関心・理解があり、史跡の保護活動として清掃や簡易な整備、草刈りなどを行うボランティアを平成 19 年から募集し、市と協働で活動している。船来山での保護活動以外にも、学びの場としてふるさと学習ロマンプロジェクトへの参加、今後の船来山古墳群整備活用に向けての保存・活用検討会への参加や赤彩古墳の館特別開館での案内活動・協働活動、市文化祭への出展など、市民向け宣伝活動なども行っている。



図 63 ボランティアによる清掃活動



図 64 ボランティア活動への高校生の参加

### <体験研修や見学会>

船来山古墳群の研究テーマは、考古学や古代史といった分野のみならず、船来山の自然や植生、そこで行われた小学生での体験が、その後の学びにどのように繋がっているかという教育的な研究も行われている。こうした研究の成果を、船来山古墳群での体験研修や見学会などに取り入れ、船来山での体験研修や見学会を開催する。



図 66 「赤彩古墳の館(272号墳)」の復元展示



図 65 「古墳と柿の館」の展示

### <古墳と柿の館を中心とした事業>

船来山の麓にある情報発信施設である「古墳と柿の館」には、船来山古墳群の全容を伝えるように展示がされており、船来山古墳群を知るうえで大変重要な施設である。これまでに発掘された遺物等の展示に、さらに力を入れ来館者の増加に繋げる。

### <赤彩古墳の館>

史跡指定地内より検出された、彩色古墳を移築し保存している。保存重視から年2回の公開としている。

### <他の文化財や文化施設との密接な連携>

デジタル化の波は、地方の文化財を一瞬にして全国・全世界に広め、国の宝とするような、とても大きな発信力を持っている。この発信力を使って、国内のみならず全世界に向けて、船来山古墳群の魅力を発信していく必要がある。それには、正確な調査研究や、我がまちの宝を世界へ発信しようとする意志が必要となる。本巢市はこうした力を育てるため、地域を対象とした古墳や歴史・文化等の研究について市民へ発信し、その力を結集するという動きが必要となる。その一案として、上磯古墳群・下磯古墳群、野古墳群等美濃全体の古墳群の連携を図り、古墳群をつなぐ周遊コースを検討し、発信していく。

### <古墳公園と周遊コース>

史跡指定地のみならず、船来山古墳群全容を考えた場合、古墳群を巡るコースを設定することは、学習上、健康上も大変重要である。この古墳群が丘陵上にあり、かつ東西に長いことから、すべての古墳を見学すれば、大いに健康づくりとなる。そこで、距離や難易度に合わせて「革靴コース」と「ジョギングシューズコース」「トレッキングシューズコース」などのコースを設け、訪問者のニーズに対応していきたい。とりわけ「ジョギングシューズコース」は、市のスポーツ振興や健康福祉部とも協力し、市

民の体力向上となるようなコース設定として、学習のみならず健康面からも船来山古墳群が応援するというコース設定とする。

#### <市内部局との連携>

船来山古墳群は、東海地方随一の数を誇る古墳であり、地形的にも、景観的にも本巣市民のバックボーンとなる遺跡である。その活用は、学習はもちろんのこと、観光資源として、また都市計画上も重要な視点場となっていること、さらに自然環境的にも豊かな植生が認められることなど、「本巣市の宝」として位置づけられることから、市行政も多くの課が関わる必要がある。また、整備を行うにしても文化財部局のみならず、市民の健康増進のために、健康福祉部もかかわる必要がある。このことから船来山古墳群の整備活用にあたっては、全庁的な連携が必要である。